

小学生における口唇閉鎖不全の有病状況、原因について検討に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2023年12月20日～2024年3月31日
研究課題	小学生における口唇閉鎖不全の有病状況、原因について検討
研究の概要	<p>目的及び意義：わが国の学校歯科保健において、歯科保健教育や集団予防プログラムの普及により「う蝕」のある児童は年々減少している。その一方で、「口唇閉鎖不全」が原因で生じる、「いつも口が開いている」や「噛めない」児童が増加しており、わが国の大規模疫学調査によると、小学生の約30%に口唇閉鎖不全がみられたとの報告がある。これは、12歳児におけるう蝕有病率とほぼ同じ値である。</p> <p>口唇閉鎖不全は、口呼吸やう蝕、歯列不正のみならず姿勢制御やアレルギー性疾患、心身発育等の全身的影響を与えるため、早期介入が必要不可欠である。しかし、その一方で、上記の先行研究は、近年の小学生を取り巻く生活環境や社会的背景は考慮されていない。</p> <p>本横断研究は、小学生における口唇閉鎖不全に与える因子について、ゲーム依存、家族形態、睡眠、心理状態、視力低下などに代表される、現代の子どもにみられる課題を含めて質問紙調査により多角的に検討する。</p> <p>本研究では、現代の小児を取り巻く生活様式に焦点を当て、口腔機能に代表される要素である口唇閉鎖機能の有病状況と、それに影響を与えると考えられる因子についての関連性を検討する。</p> <p>本研究結果は、ポストコロナ時代の小児における口唇閉鎖不全の要因を特定することで、口腔機能発達不全症におけるガイドラインのブラッシュアップに寄与する。</p> <p>対象：神奈川県の公立小学校に通う小学生（3、4年生）およびその保護者。</p> <p>方法：小学生における口唇閉鎖不全の要因を検証するために、無記名の自記式質問票調査を行う。質問紙票は、保護者用、児童用にわかれている。</p> <p>調査手続きとして、教育委員会から各校の校長に質問紙票の配布を依頼し、無記名の自記式質問紙調査を実施し、留め置き回収とする。対象者のデータ収集後、統計解析により、口唇閉鎖不全の有病状況、要因を特定する。</p>
研究組織	<p>【研究代表者】</p> <p>ヘルスイノベーション研究科 助教 久保田 悠</p> <p>【研究分担者】</p> <p>昭和大学歯学部・口腔衛生学講座 教授 弘中 祥司</p> <p>昭和大学歯学部・口腔衛生学講座 講師 渡邊 賢礼</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究の実施にあたっては、ヘルシンキ宣言、「個人情報の保護に関する法律」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および本研究計画書の記載を遵守し、協力者の人権、福祉および安全が最大限に確保される。</p> <p>個人情報移動等の際の情報の受け渡しは、パスワードを設定する等のセキュリティ対</p>

	<p>策を講じた上、運送業者と受取人が対面での確認を要する書留での送付、または本研究に携わる研究者同士で直接手渡し形式で対応する。</p> <p>同意書および同意撤回書は 2 枚複写とする。1 枚目は本人宛に、2 枚目は名前等、個人を識別する情報を削除せず、封筒に密封された状態で、神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科の Lab101 の施錠タイプのロッカーにて適切に保管される。</p> <p>本研究のデータは、研究分担者である昭和大学歯学部口腔衛生学講座にも提供される。データは、目的以外の理由で使用されず、研究代表者、研究分担者および同講座の教員および大学院生のみが利用閲覧できるものとする。提供するデータの個人情報は、生年月日、電話番号等、個人を識別できる情報を削除し、識別コード（ID 番号）を用いた匿名化された状態で取り扱われる。</p>
その他	

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者： ヘルスイノベーション研究科 助教 久保田 悠

TEL : 044-589-8100 (代表)